

《第 11 号》「自責点加算方式はいかが？」

芝原 純(社/消費者関連専門家会議 理事長)

誰だって環境にやさしい生活を実践したいはず。私だってそうだ。電気はこまめに消すし、ペットボトルは旅行以外には買わないし、車はなるべく使わずに電車やバスを使う。けれどグリーンコンシューマーを徹底しているという実感がわからないのはなぜだ。

市場経済社会では、ほとんどすべての活動成果は金額換算できるから、自分の目標設定や成果について、容易に客観的評価ができる。例えば車を買いたいとき、自分の小遣いの何か月分になるのか、通帳残高を見てあといくら貯めれば買えるか、など明快なのである。

しからは、グリーンコンシューマーとしての生活ぶりを点数で評価できないだろうか。

簡単に言えば、マイバッグを持参せずにレジ袋をもらったら何点、朝シャン 1 回は何点というものである。使い捨ての梱包材料、飲料容器、使い捨ての食器などは、製造と廃棄に要する資源量を点数で表示し、廃棄時に自責点として加算するのはどうだろう。

目下の私の最悪の行動は、通勤電車で毎日往復 60 キロメートル以上も移動するための電気エネルギーの消費である。1 往復がレジ袋何枚分になるのか誰か計算して教えてほしい。

色々な材料や製法の組み合わせで次々に生まれてくる製品について、環境負荷量を点数表示する技術的困難性は十分認識した上で、何か良い方法はないものかと愚にもつかぬことを真面目に考えているこの頃である。

以上